

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<15週> インフルエンザの定点当たり報告数は1を切り、ほとんどの地域で流行はほぼ終息したと考えられる / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<麻疹> 本年第1週からの累積患者報告数は4,442人、基幹病院定点からの累積成人麻疹報告数は106人



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - インフルエンザ / 感染性胃腸炎



速報  
P.6

エコーウイルス13型の分離状況 - 大阪市



海外感染症情報  
P.7

フランスの変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 / ハワイでデング熱の流行 - 米国 / アフリカ髄膜炎ベルトでの髄膜炎菌感染症流行 - 更新



感染症の話  
P.8-13

破傷風  
破傷風の主症状である強直性痙攣の原因は、主に神経毒である破傷風毒素によると考えられている



読者のコーナー  
P.14



グラフ総覧(15週)  
P.15-21



15週のデータ  
P.22-29



# 発生動向総覧

第15週コメント 4月19日集計分

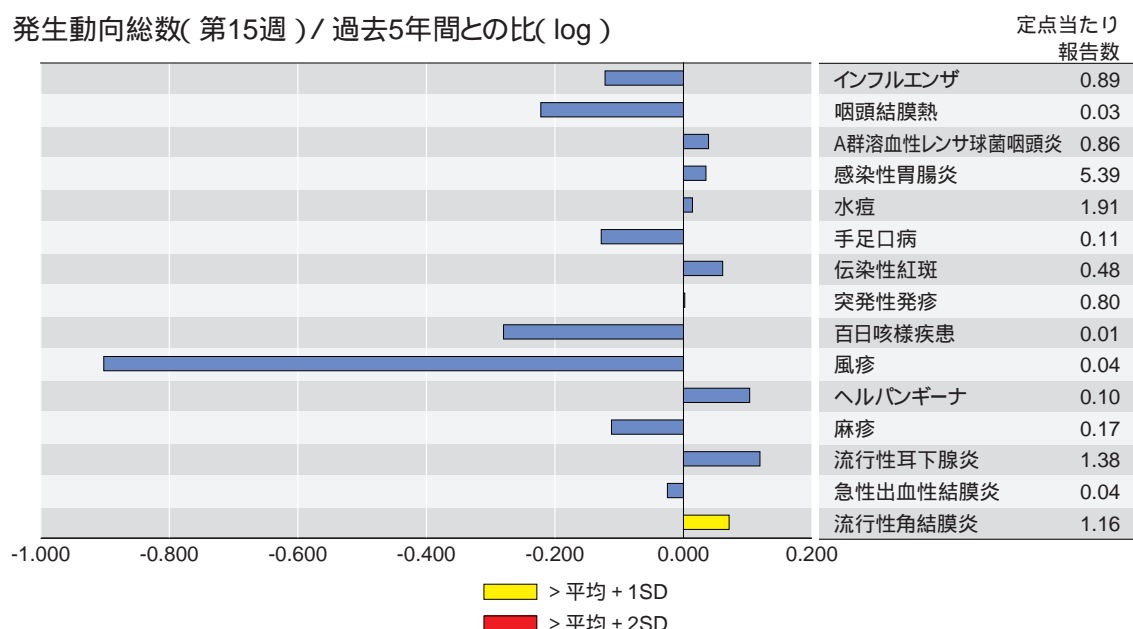
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢5例( 推定感染地: 国内1例、インド2例、インド・ネパール1例、不明1例。)  
腸チフス1例( 推定感染地: インド )、パラチフス2例( 推定感染地: インドネシア、タイ・カンボジア各1例 )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症12例( うち有症者9例 )
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例、オウム病1例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例( 孤発性2例、家族性1例 )、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、ジアルジア症3例( 推定感染地: 国内2例、インド1例 )、ツツガムシ病3例、レジオネラ症1例
- 急性ウイルス性肝炎12例 A型10例( 推定感染地は全て国内。このうち4例は山形県からの報告。 )  
B型2例( 感染経路: 性的接触1例、不明1例 )
- 後天性免疫不全症候群14例( AIDS 6例、無症候性キャリア8例 )  
感染経路: 性的接触13例( 異性間7例、同性間5例、異性/同性間1例 )、不明1例
- 梅毒4例( 晩期顕症1例、無症候3例 )
- マラリア1例( 三日熱マラリア1例、推定感染地: タイ )

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

インフルエンザの定点当たり報告数は1を切り、ほとんどの地域で流行はほぼ終息したと考えられる。感染性胃腸炎は鳥取県、宮崎県、石川県、山口県で定点当たり報告数が10を超えている( 感染性胃腸炎の病原体については5ページ参照 )。水痘は沖縄県で定点当たり4.5の報告がある。麻疹は全国的にみると定点当たり報告数は例年にくらべ低い値となっているが、愛知県で第15週に119例の報告があった( 麻疹に関する詳しい情報は、4ページ「注目すべき感染症」参照 )。流行性耳下腺炎は宮崎県で定点当たり5.4、山形県で4.2と報告が多くなっている。流行性角結膜炎は過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がやや多くなっており、愛媛県で4.0の報告がある。

発生動向総数( 第15週 ) / 過去5年間との比( log )

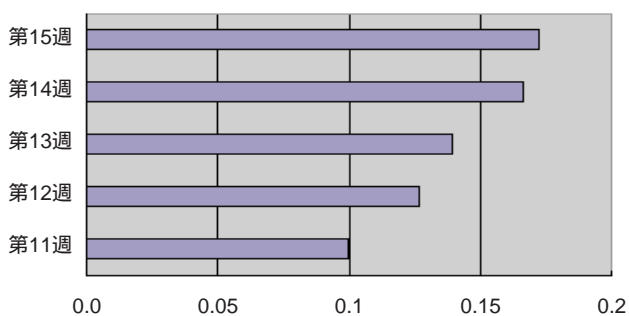


当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

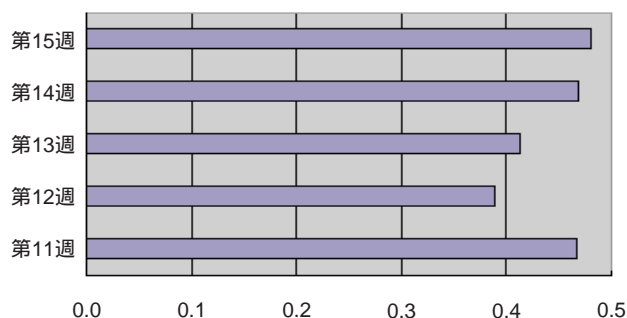
## 最近の注目疾患－5週間の動き

麻疹の定点当たり報告数は増加傾向にある。伝染性紅斑は前週より定点当たり報告数がわずかに増加した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘の定点当たり報告数は前週とほぼ変わらない。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、ここ5週では全体として緩やかな減少傾向にある。

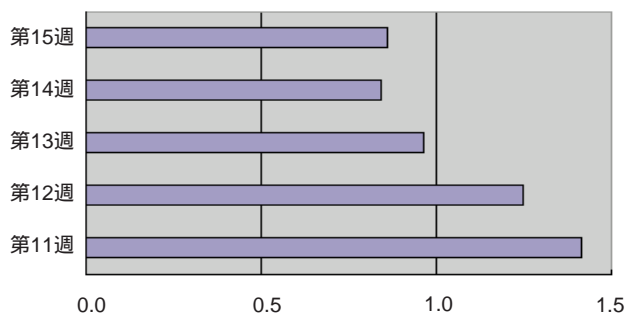
麻疹



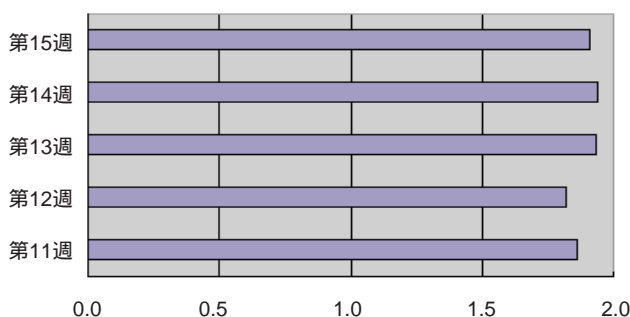
伝染性紅斑



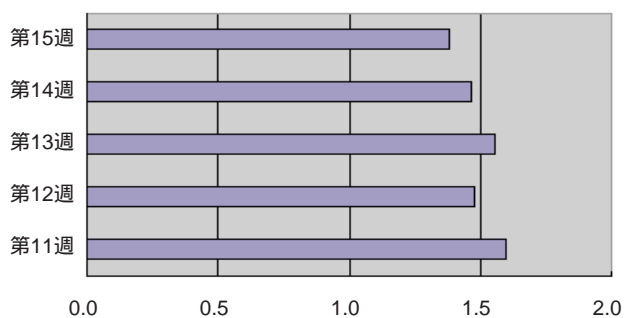
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



水痘



流行性耳下腺炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

## 麻疹

麻疹は例年年初から春にかけて報告が増加し、5月頃流行のピークを迎える。昨年は1992、1993年以来の大きな流行となり、成人麻疹患者の増加も認められた。2002年の現在までの発生状況に関しては、全国レベルでの定点当たり報告数は例年にくらべ低くなっている(18ページグラフ参照)。現在、定点当たり報告数が多くなっているのは、青森県(1.1)、愛知県(0.7)、福島県(0.6)、埼玉県(0.4)、千葉県(0.4)などである。本年第1週からの累積患者報告数は4,442人であり、年齢階級別内訳を円グラフに示す。全国約500の基幹病院定点から報告される成人麻疹患者数は、累積で106人となっている。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによれば、大きな流行の存在を示唆する「警報」は、愛知県内の6保健所、青森県内の2保健所など全国計22保健所で発生しており、今後4週間以内に警報が生ずる可能性が高い「注意報」は愛知県内の8保健所、埼玉県内の5保健所、青森県内の3保健所など全国計43保健所に発生している。

1歳を過ぎた麻疹ワクチン未接種かつ麻疹未罹患者には、ワクチンを早急に接種することが推奨される。

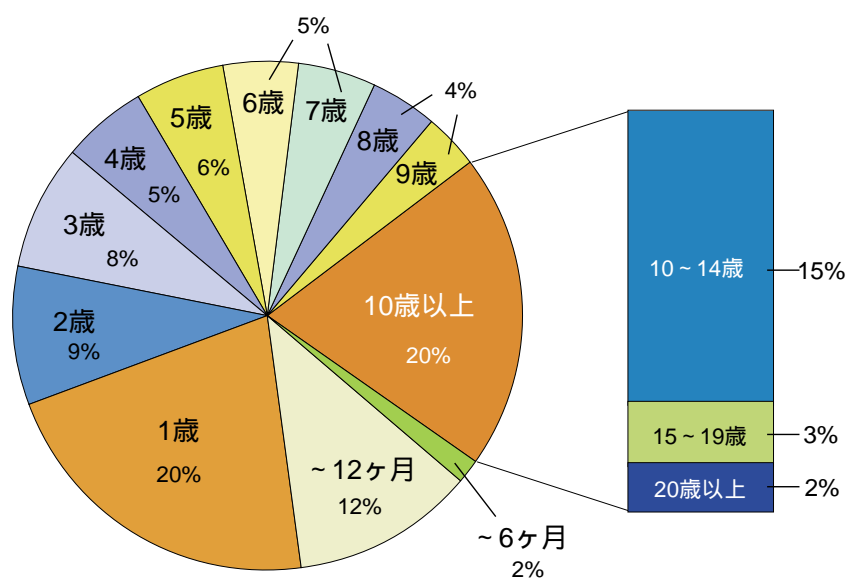
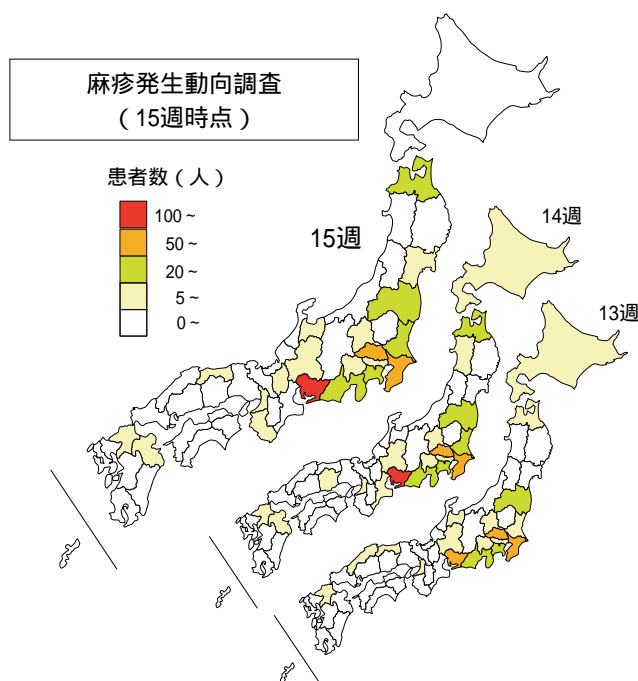


図. 累積麻疹患者年齢階級別グラフ (2002年1～15週)



## 病原体情報

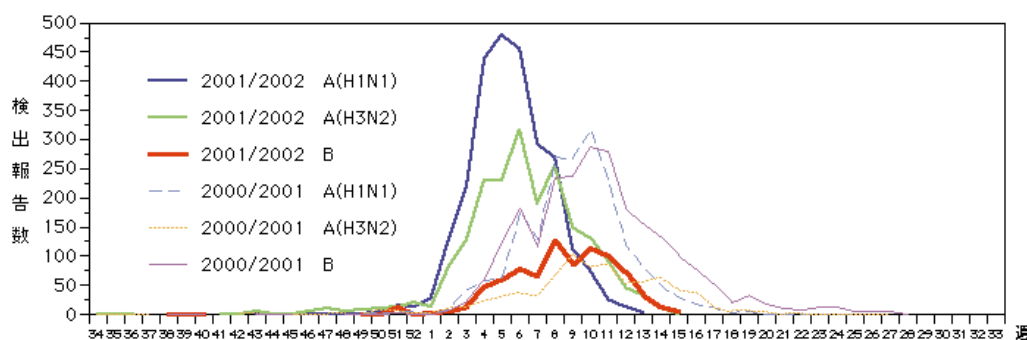
\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。  
( 2002年4月19日現在報告分 )

### インフルエンザ 2001/02シーズン

今シーズンの分離・検出報告は、A/ソ連型( H1 )が2,571件、A/香港型( H3 )が1,994件、B型が833件である。昨シーズンと同様にA/ソ連、A/香港、B型の混合流行であるが、今シーズンはA/ソ連、A/香港型の報告は第2週から増加し始め、第5週にA/ソ連型が、第6週にA/香港型がピークを迎えた。B型は第4週頃より報告が増加し始め、他の2つの型よりピークは遅れており、第10週以降では報告数の減少したA/ソ連型を上回り、A/香港型とともに報告が続いている。最近では、A/ソ連型が第14週に1( 沖縄県 )、A/香港型が第14週に9( 5県市 )、第15週に1( 札幌市 )、B型が第14週に14( 6県市 )、第15週に4( 札幌市、愛媛県 )が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報：2002年4月19日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。

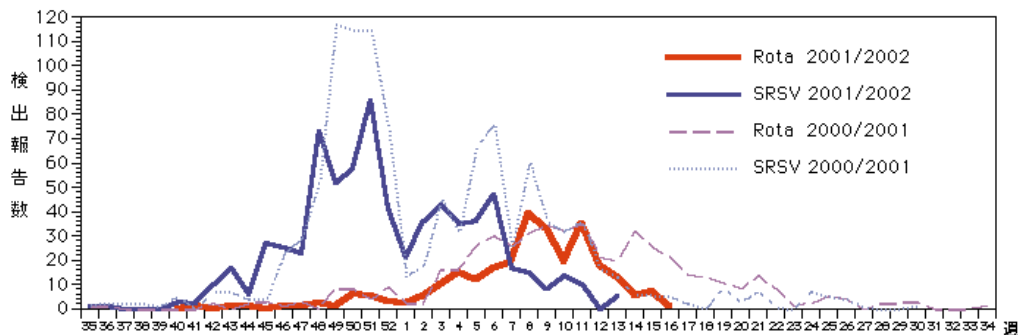


### 感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSVの検出は、ノーウォーク様ウイルス( NLV )genogroup IIが457件、NLV genogroup Iが23件、NLV genogroup unknownが131件、サッポロ様ウイルス( SLV )が30件で、その他に電顕による検出が71件報告された。また、A群ロタウイルス254件、群不明ロタウイルス18件の検出が報告されている。SRSVは第51週をピークに減少し、第8週以降ロタウイルスがSRSVの検出数を上回っている。

週別SRSV&ロタウイルス検出報告数の推移、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報：2002年4月19日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。





## エコーウイルス13型の分離状況 - 大阪市

2001年11月～2002年3月までの期間に、主として大阪市感染症サーベイランス検査事業に供与された患者検体から計9株のエコーウイルス13型(E13)が分離された。患者は本市および近隣市に居住していた0～9歳の小児で、いずれも散発事例であった。各患者の臨床診断名は無菌性髄膜炎(6名)、感染性胃腸炎(2名)、および不明発疹(1名)であった。各患者に認められたその他の臨床症状は、38～39度の発熱(8名)、嘔吐(5名)、頭痛(2名)、および上気道炎(1名)であった。

当所においてE13が最初に分離された患者検体は、不明の発疹と診断された近隣市在住の1歳児の咽頭ぬぐい液で、2001年11月19日に採取された。この検体をRD-18SおよびVero細胞に接種した結果、RD-18S細胞において明瞭なエンテロウイルス(EV)様の細胞変性効果(CPE)が認められたことから、ウイルス分離陽性と判断した。この分離ウイルスの同細胞における感染価は、 $10^6$ TCID<sub>50</sub>/0.1mlであった。抗EVプール血清(デンカ生研製およびEP95)、および抗コクサッキーウイルスA群10型(CA10)、抗CA16、抗EV71の各単味血清を用いてウイルス中和試験を行ったが、試験は不成立であった。EVのVP4遺伝子前後を特異的に増幅するプライマー(EVP2、およびOL68-1)を用いたRT-PCRにおいて、約650bpの特異的フラグメントの増幅が認められたことから、分離ウイルスはEVであることが確認された。このEVのVP4遺伝子(207nt)の塩基配列を決定し、さらにVP4遺伝子を用いたN-J法による系統解析を行った結果、この分離EVの血清型は過去6年間に当所において分離されたEV(Kubo et al., *Emerg. Infect. Dis.* 2002)とは異なることが明らかとなった。次に、EVのVP1から2C領域を特異的に増幅するプライマー(Caro et al., *J. Gen. Virol.* 2001)を用いてRT-PCRを行い、特異的に増幅された約1,400bpのフラグメント中に存在するVP1遺伝子の3'側領域約400ntの塩基配列を決定し、これに対してBLAST2 search (<http://blast.genome.ad.jp/>)を行った結果、本分離ウイルスはE13に最も相同性の高いことが明らかとなった。また、抗E13単味血清(デンカ生研製)を用いた中和試験において、本分離ウイルスは良好に中和された。

以上の結果を考慮して、その後RD-18S細胞のみにEV様のCPEを示した分離ウイルスに対しては、上記抗EVプール血清とともに抗E13単味血清についても中和試験を行った。2001年11月から現在までに計9株のE13を分離・同定しているが、いずれの分離ウイルスにおいても、抗E13単味血清による明瞭な中和反応が認められた。

大阪市立環境科学研究所

久保英幸 入谷展弘 勢戸祥介 村上 司 春木孝祐

(IASR2002年5月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



## 海外感染症情報

\* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ( <http://www.forth.go.jp/> )をご覧ください。

### フランスの変異型クロイツフェルト・ヤコブ病

Eurosurveillance weekly 2002年4月18日

2002年3月にフランスのクロイツフェルト・ヤコブ病関連疾患の国立サーベイランス機関( National surveillance network for Creutzfeldt-Jakob disease and related diseases )から変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の新規患者1例が報告され、確定診断例と疑い例( probable )を合計した症例数は6例となった。この患者は死亡した。

変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の診断基準に該当した6名は、確定診断例が3名( 1996年、2000年、2001年に死亡 ) および疑い例が3名( 2名は2001年および2002年に診断され、現在生存中である。1名は2002年に死亡し、神経病理学的な確認はまだ出ていない )であり、性別では男性4名と女性2名であった。死亡時または届け出時の患者年齢の中央値は30歳( 20～37歳 )であった。3例はIle-de-Franceで発生し、残りの3例は他の地域で発生した。すべての症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129の対立遺伝子が共にメチオニンであり、他の型のクロイツフェルト・ヤコブ病のリスクファクターを持っていなかった。

### ハワイでデング熱の流行 - 米国

Health Canada 2002年4月18日

2001年6月10日から2002年4月5日までに確定診断されたデング熱患者は、マウイ島で89名、カウアイ島で4名、オアフ島で26名の合計119名である。このためハワイ州政府は、居住地での蚊の繁殖場所をなくす対策を実行した。

### アフリカ髄膜炎ベルトでの髄膜炎菌感染症流行 - 更新

WHO/CSR 2002年4月18日

ベナン: 1月1日から4月7日までに、50名の死亡( 致命率10% )を含む502名の髄膜炎患者がWHOに報告された。

コートジボワール: 1月1日から4月7日までに、43名の死亡( 致命率18% )を含む244名の髄膜炎患者が報告された。

ガンビア: 1月1日から4月7日までに、3名の死亡( 致命率6% )を含む50名の髄膜炎患者が報告された。A群髄膜炎菌が検査で確認された。

ギニア: 1月1日から3月31日までに、23名の死亡( 致命率19% )を含む123名の髄膜炎患者が報告された。4つの地域で現在流行に対して警報が出されている。Youmou地区の患者検体からA群およびC群髄膜炎菌が確認された。他の流行地区の疫学的調査および検査結果はまだ出ていない。

マリ: 1月1日から4月7日までに、33名の死亡( 致命率9% )を含む382名の髄膜炎患者が報告された。

セネガル: 1月1日から4月7日までに、7名の死亡( 致命率6% )を含む121名の髄膜炎患者が報告された。

トーゴ: 1月1日から4月7日までに、95名の死亡( 致命率16% )を含む589名の髄膜炎患者が報告された。13地区で患者が発生し、そのうち5つの地域( Assoli, Tchamba, Sotouboua, Blitta, Wawa )では流行の規模に達した。A群髄膜炎菌が検査で確認された。



## 感染症の話

### 破傷風

破傷風は、破傷風菌(*Clostridium tetani*)が産生する毒素のひとつである神経毒素(破傷風毒素)により強直性痙攣をひき起こす感染症である。破傷風菌は芽胞の形で土壌中に広く常在し、創傷部位から体内に侵入する。侵入した芽胞は感染部位で発芽・増殖して破傷風毒素を産生する。破傷風の特徴的な症状である強直性痙攣は破傷風毒素が主な原因であり、潜伏期間(3～21日)の後に局所(痙攣、開口障害、嚥下困難など)から始まり、全身(呼吸困難や後弓反張など)に移行し、重篤な患者では呼吸筋の麻痺により窒息死することがある。近年、1年間に約40人の患者(致命率:約30%)が報告されているが、これらの患者の95%以上が30才以上の成人であった。

### 疫学

我が国では破傷風は1950年には報告患者数1,915人、死亡者数1,558人であり、致命率が高い(81.4%)感染症であった。1952年に破傷風トキソイドワクチンが導入され、さらに1968年には予防接種法によるジフテリア・百日咳・破傷風混合ワクチン(DTP)の定期予防接種が開始された。以後、破傷風の患者・死亡者数は減少し、1991年以降の報告患者数は1年間に30～50人とどまっているが、依然として致命率が高い(20～50%)感染症である。1999～2000年に報告された患者に関して、年齢分布は95.5%(150人)が30歳以上の成人であり、男女の内訳は男性90人(57.3%)、女性67人(42.7%)であった。また、患者数は1999年には65人、2000年には92人と増加傾向を示しており、今後その動向に注意を払う必要がある。

新生児破傷風は1995年の報告を最後に、それ以降報告されていない。しかし、世界の新生児の主要な死亡原因の一つとなっている。

### 病原体

偏性嫌気性菌である破傷風菌は好気的な環境下では生育できないので、通常、熱や乾燥に対し高い抵抗性を示す芽胞の形態で世界中の土壌に広く分布している。我々の日常生活において芽胞との接触を完全に遮断することは不可能であり、誰にでも感染が成立する可能性があるといえる。

破傷風菌はその芽胞が創傷部位より体内に侵入し感染する。現在でも転倒などの事故や土いじりによる受傷部位からの感染が多い。創傷部位を適切に治療することにより、感染の可能性が低くなる。しかし、破傷風菌の芽胞は極めて些細な創傷部位からでも侵入すると考えられており、侵入部位が特定されていない報告事例(1999～2000年では23.6%)も多い。また、アメリカ合衆国では注射による薬物依存者に破傷風患者が報告され、芽胞に汚染された薬物、その溶解液や注射器からの感染の可能性が指摘されている。日本国内でも薬物乱用者の増加が懸念されていることから、今後注意が必要である。

新生児破傷風は、衛生管理が十分でない施設での出産の際に、破傷風菌の芽胞で新生児の臍帯の切断面が汚染されることにより発症する。

### 臨床症状

破傷風菌が産生する毒素には、神経毒(破傷風毒素、別名テタノスパスミン)と溶血毒(テタノリジン)の2種類がある。破傷風の主症状である強直性痙攣の原因は、主に神経毒である破傷風毒素によると考えられている。



患者は通常3～21日の潜伏期を経て特有の症状を呈するが、その段階は次の4期にわけられる(「改訂・感染症マニュアル」、厚生省保健医療局結核感染症課監修、マイガイア、1999年)。

第一期: 潜伏期の後、口を開けにくくなり、歯が噛み合わされた状態になるため、食物の摂取が困難となる。首筋が張り、寝汗、歯ぎしりなどの症状もでる。

第二期: 次第に開口障害が強くなる。さらに顔面筋の緊張、硬直によって前額に「しわ」を生じ、口唇は横に拡がって少し開き、その間に歯牙を露出し、あたかも苦笑するような痙攣(ひきつり笑い)といわれる表情を呈する。このような顔貌を破傷風顔貌と称する。

第三期: 生命に最も危険な時期であり、頸部筋肉の緊張によって頸部硬直をきたし、次第に背筋にも緊張、強直をきたして発作的に強直性痙攣がみられ、腱反射の亢進、バビンスキーなどの病的反射、クローヌスなどがこの時期に出現する。

第四期: 全身性の痙攣はみられないが、筋の強直、腱反射亢進は残っている。諸症状は次第に軽快してゆく。

破傷風では初期(第一期)症状(一般に開口障害)から、全身性痙攣(第三期)が始まるまでの時間をオンセットタイムといい、これが48時間以内である場合、予後は不良であることが多い。

新生児破傷風は潜伏期間が1～2週間で、特徴的な症状には吸乳力の低下などがある。発症すると60～90%が10日以内に死亡する。

1999～2000年に報告があった破傷風症例(157例)の中で、臨床材料から菌が分離されたのは1例であり、他の156例は臨床症状から診断された。このように、強直性痙攣などの破傷風特有な症状により臨床的に診断されることが多い。破傷風治療の要である抗破傷風ヒト免疫グロブリン(TIG)療法は、発症初期に実施することが望ましいので、破傷風の治療には早期診断が重要である。

破傷風の診断では感染部位を特定することは重要であるが、必須ではなく、実際に感染部位が特定されていない場合も少なくない(1999～2000年では26%)。そこで、外傷の有無に関わらず、開口障害や嚥下困難などが認められた場合には破傷風を疑う必要がある。

また、TIG投与前の患者血清中の破傷風抗体価を測定し、免疫状態を推測することができる。それが発症防御レベル(0.01単位/ml)以上であるなら、破傷風でない可能性がある。しかし、ここで注意する必要があるのは、TIGの投与の有無、抗体の測定方法である。TIG投与後では、それにより受動的に導入された抗体と過去に接種されたワクチンにより誘導された抗体を区別することはできない。また、測定方法が中和試験ではなく、ELISA法や凝集法であるなら、必ずしも正確に中和抗体価をあらわしていない可能性がある。さらに、(ELISA法で測定して)発症防御レベル以上の抗体価を保有しながらも実際に発症した例もある。

### 病原診断

偏性嫌気性菌である破傷風菌の栄養型は、検査時に好気環境へ暴露すると容易に死滅するので、菌の継代などの作業は速やかに行う必要がある。一方、破傷風菌が形成する芽胞は薬剤や熱などに対して極めて高い抵抗性を持つことから、検査施設内の汚染防止に十分な努力が必要である。破傷風の検査従事者は自分の血中破傷風抗体価を測定し、0.01単位/ml未満の場合には、ワクチン接種により免疫を獲得しておくことが望ましい。

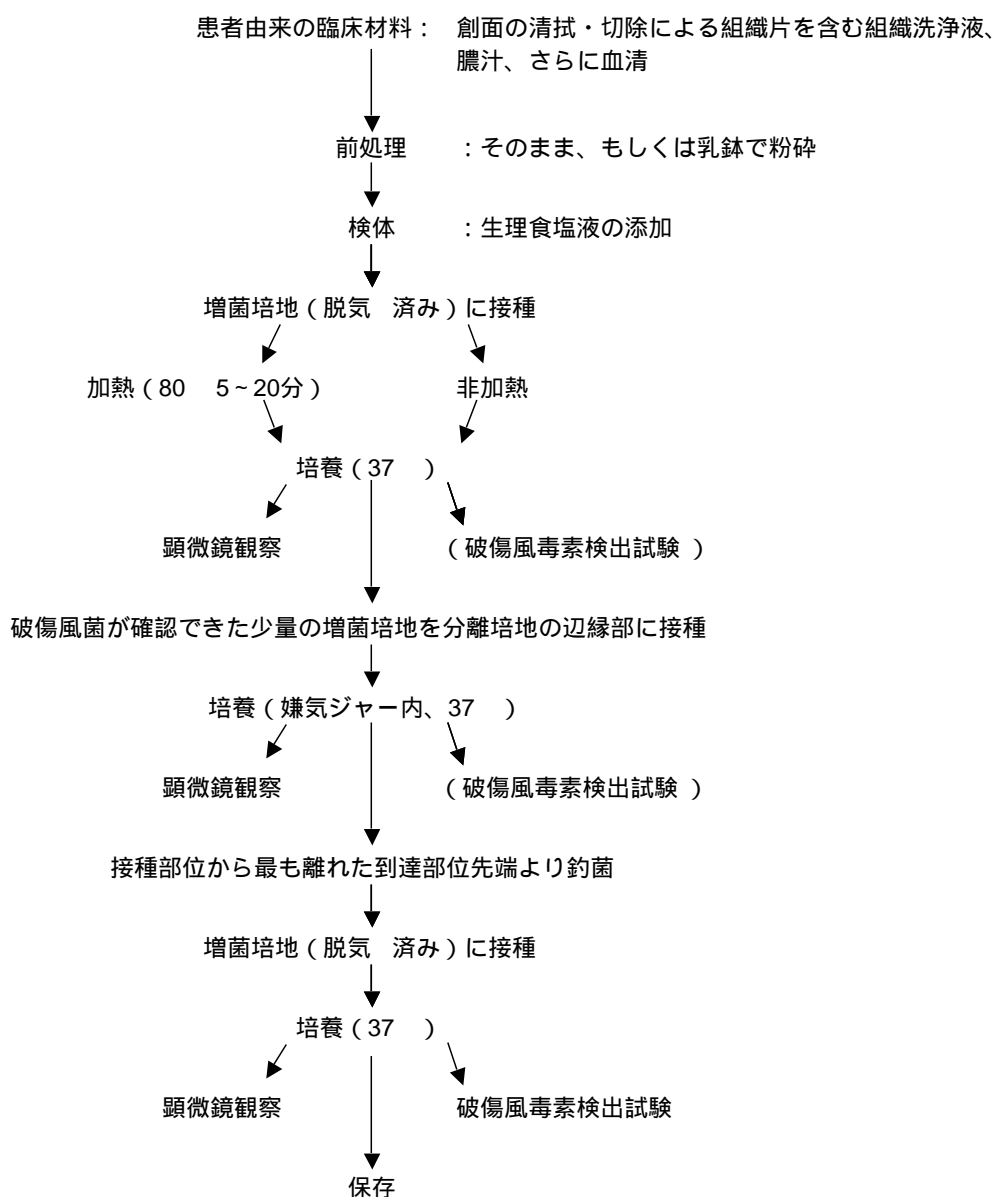
臨床症状(強直性痙攣)から診断されることが多く、検査時にはすでに抗菌薬の投与後で、菌の検出が困難な場合が多いことから、検体(患者の臨床材料など)から菌の分離を試みる機会は少ない。しかし、菌の分離、さらにその菌株からの毒素の検出が行われれば診断がより確実(病

原体診断)になるために、細菌学的検査として行うことが望ましい。

菌の分離(図1)に用いられる検体には、感染局所の清拭・切除による組織片を含む組織洗浄液や膿汁などがある。検査時には、必要に応じて乳鉢などで粉碎して使用する。

菌の分離方法は、2本の増菌培地(脱気済みクックドミート培地やチオグリコール酸培地など)に検体を接種した後、1本のみを加熱(80℃、5～20分間)、他の1本(芽胞を形成しにくい菌株も存

図1. 細菌学的検査の流れ



増菌培地は脱気することにより、嫌気状態になるので、嫌気ジャーに入れる必要無し。

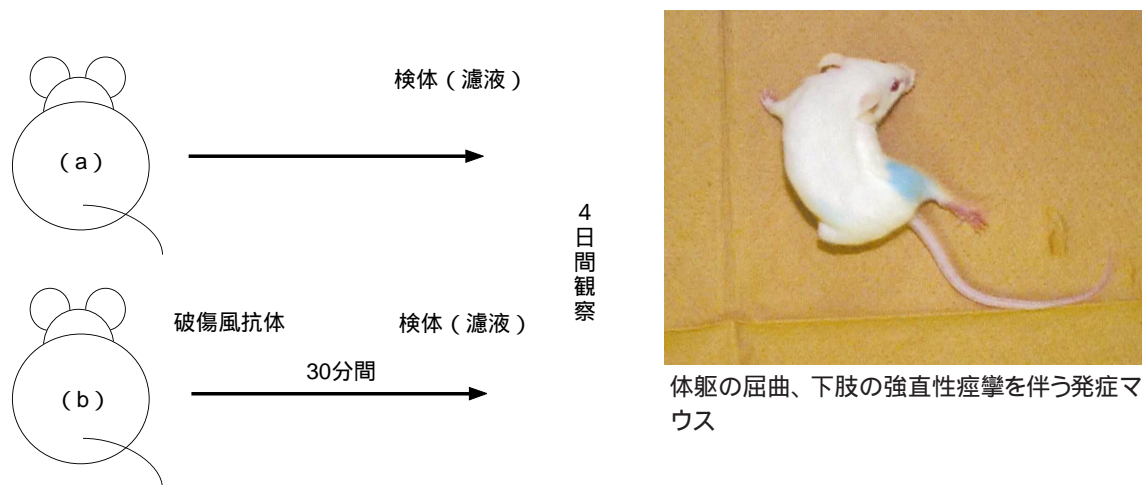
脱気 : 100℃ 5分間加熱後、氷水中で急冷する。

在するため )とともに培養( 37℃、2~4日間 )する。破傷風菌が確認された少量の増菌培地を分離培地( GAM平板寒天培地や血液寒天培地等 )の辺縁の近くに接種し、37℃ 24時間嫌気ジャー内で嫌気培養する。多くの破傷風菌は遊走性があるために、接種部位から離れた所まで到達する。その到達部位の先端では純培養に近い状態で菌を分離することができる。しかし、遊走性の低い破傷風菌株もあるので注意が必要である。なお、増菌培地は加熱( 100℃ 5分間 )後氷水中で急冷し、脱気した後に使用する。

グラム染色後の顕微鏡観察では芽胞は染色されないが、菌体だけが染色されるために、太鼓のバチ状の桿菌として確認できる。培養初期では通常グラム陽性であるが、長期間培養すると陰性化する傾向がある。

その後分離菌株から破傷風毒素を検出する必要があり、分離菌株を培養した増菌培地を用いて破傷風毒素検出試験を実施する( 図2 )。分離菌株を培養( 4~6日間 )した増菌培地を濾過滅菌( 0.22 μm )し、その濾液( 0.2~0.4ml/匹 )をマウス( a )の大腿部皮下に注射する。また、別のマウス( b )には、予め約100単位の破傷風抗体( 0.5ml )を静脈内投与する。破傷風抗体( 通常1単位の抗体量は1,000~10,000マウス致死量の毒素を中和する )投与30分後に、さらにマウス( a )に接種し

図2. 破傷風毒素検出試験



( 結果 )

	マウス		検体中の破傷風毒素
	( a )	( b )	
例 - 1	発症	無症状	存在する。
例 - 2	無症状	無症状	存在しない。
例 - 3	発症	発症	極めて多量に存在する。または、マウスに致死活性をしめす破傷風毒素以外の物質が存在する。

破傷風毒素以外の物質による発症の可能性があるので、必ずしも特有の症状( 強直性痙攣 )であるとは限らない。

た濾液を同じく接種する。これらのマウスを4日間毎日観察する。接種濾液中に破傷風毒素が存在する場合は、マウス(a)は破傷風毒素特有の体躯の硬直、屈曲、また下肢の強直性痙攣(図2. マウス写真)などを起こし、濾液に含まれる破傷風毒素量が多ければマウスは死亡する。マウス(b)は破傷風抗体により破傷風毒素は中和されるために発症せず、生存する(図2. 結果 例-1)。しかし、マウス(a)と(b)がともに発症しない場合、接種濾液中に破傷風毒素を含めマウスに対して致死活性を示す物質が存在しないと考えられる(図2. 結果 例-2)。また、マウス(a)と(b)がともに発症した場合、接種濾液中に極めて多量の破傷風毒素が存在するか、もしくはマウスに対して致死活性を示す破傷風毒素以外の物質が存在する可能性がある(図2. 結果 例-3)。

### 治療・予防

治療として、TIGの投与や、さらに感染部位の十分な洗浄やデブリードマンを行い、抗菌薬を投与する。対症療法として、抗痙攣剤の投与、呼吸や血圧の管理も重要である。

破傷風毒素に対する特異的治療薬であるTIGは、組織に結合していない血中の遊離毒素を特異的に中和することができるが、既に組織に結合した毒素を中和することができないと考えられている。従って、その投与は可能な限り早期に実施することが望ましい。TIG療法としては、外傷患者では1,500～3,000単位を1回投与する。熱傷患者では熱傷部位から免疫グロブリンを含む体液が漏出するために、投与量を増量する(「予防接種の手引き」, 木村三生夫、近代出版、2000年)。

破傷風はヒトからヒトへ伝播することはないが、呼吸や血圧の管理が可能な集中治療室などで実施することが望ましい。また、回復した患者でも十分な免疫が誘導されないため、ワクチン接種をして免疫を獲得することが望ましい。

現行の「予防接種法」では、若齢者を対象に定期予防接種として、DTP(生後3カ月以上90カ月未満に4回)と沈降ジフテリア・破傷風混合トキソイド(DT) 11歳以上13歳未満に1回)の接種が推奨されている。定期予防接種の非対象者に対しては、沈降破傷風トキソイドを用いた初回接種(4～8週間隔で2回)と追加接種(初期接種後6～18カ月に1回接種)がすすめられる。多くの場合これらのワクチン接種により、発症防御抗体レベル(0.01単位/ml)を超える抗体価を獲得することが可能である。さらに10年毎に追加接種を行えば、防御抗体レベル以上の血中抗体価を維持することができると考えられている。しかし、定期予防接種の対象者である若齢者ではワクチンの接種率は70%を上回る反面、成人をはじめとする非対象者では、事故などの特別な理由がなければ破傷風トキソイドワクチンを接種する機会はないので、成人の多くは十分な破傷風抗体を保有していない状況である。近年の破傷風患者の高齢化に伴い、今後成人への破傷風トキソイドワクチン接種の必要性に関する啓発が望まれる。

また、事故などで発症のおそれがある患者の予防処置としては、予防接種歴に応じて沈降破傷風トキソイドの接種が行われる。定期予防接種が完全に行われてから10年以内であるなら、患者の血中抗体価は発症防御抗体レベルを上回っていると考えられるが、それ以外の場合では沈降破傷風トキソイドの接種を実施し、さらに、創傷の程度によりTIG 250単位の投与も考慮する。

日本国内では1995年を最後にそれ以降新生児破傷風の報告はないが、致命率が極めて高く治療が困難な疾患である。これには清潔な出産管理が基本であるが、加えて母親の免疫を高めておく方法がある。

#### 感染症法における取り扱い

破傷風は4類感染症全数把握疾患であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、外傷の既往と臨床症状などから、破傷風が疑われる場合

なお、感染部位( 外傷部位 )からの破傷風菌の分離と同定、及び分離菌からの破傷風毒素の検出がなされれば、病原体診断である旨を報告する。

( 国立感染症研究所細菌第二部 福田 靖、岩城正昭、高橋元秀 )



## 読者のコーナー

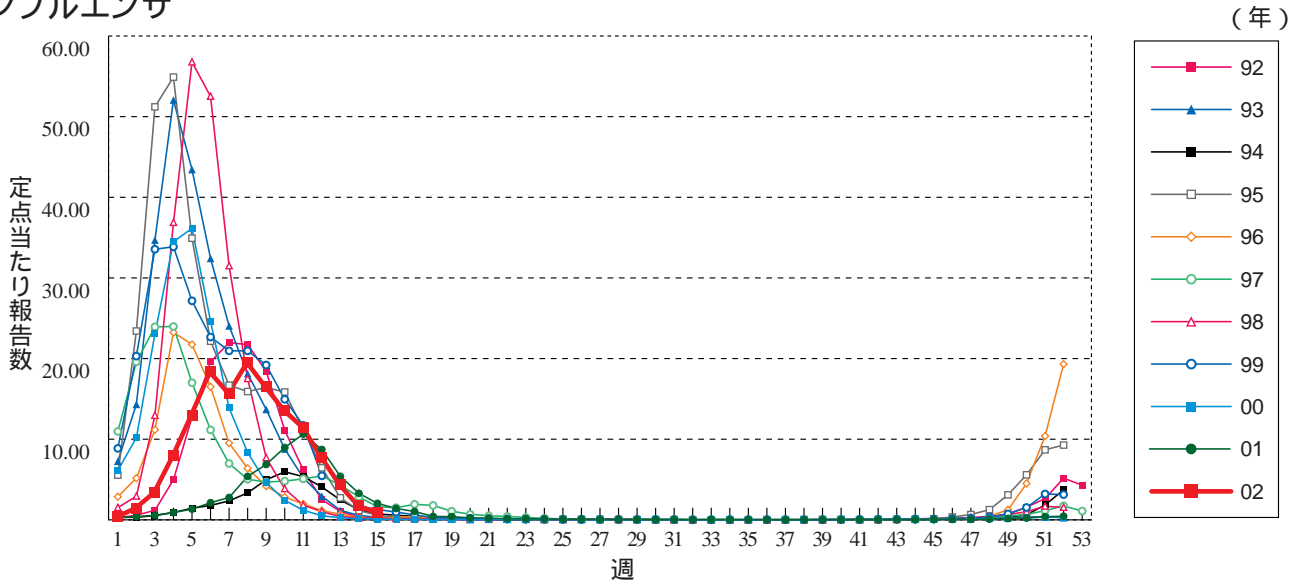
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

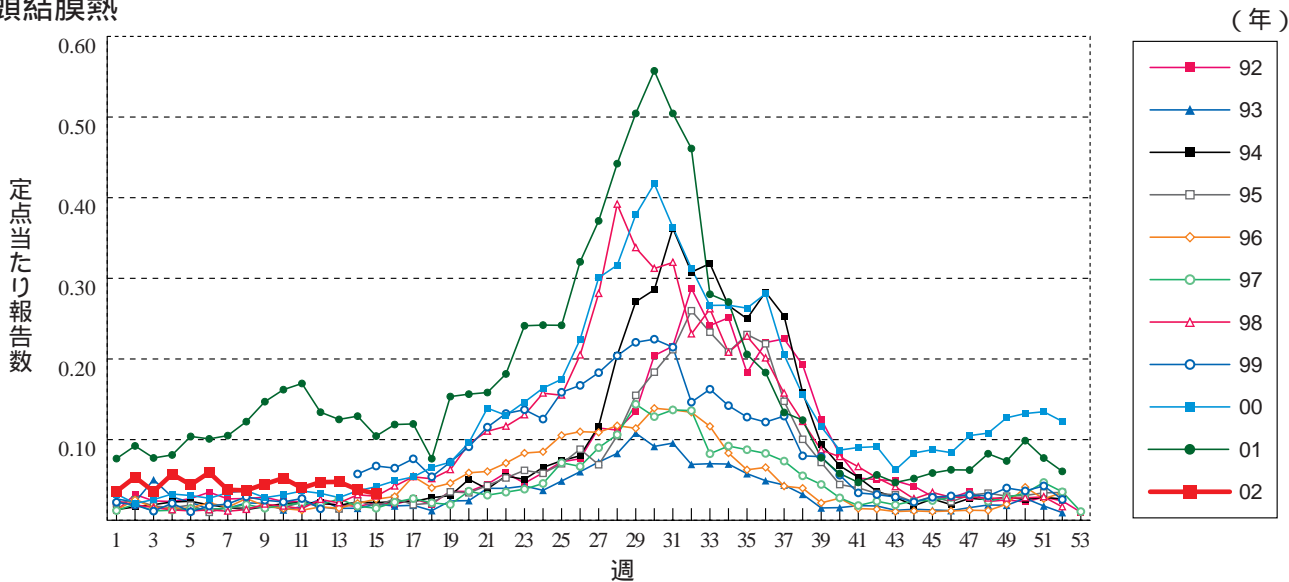


**グラフ総覧(15週)**

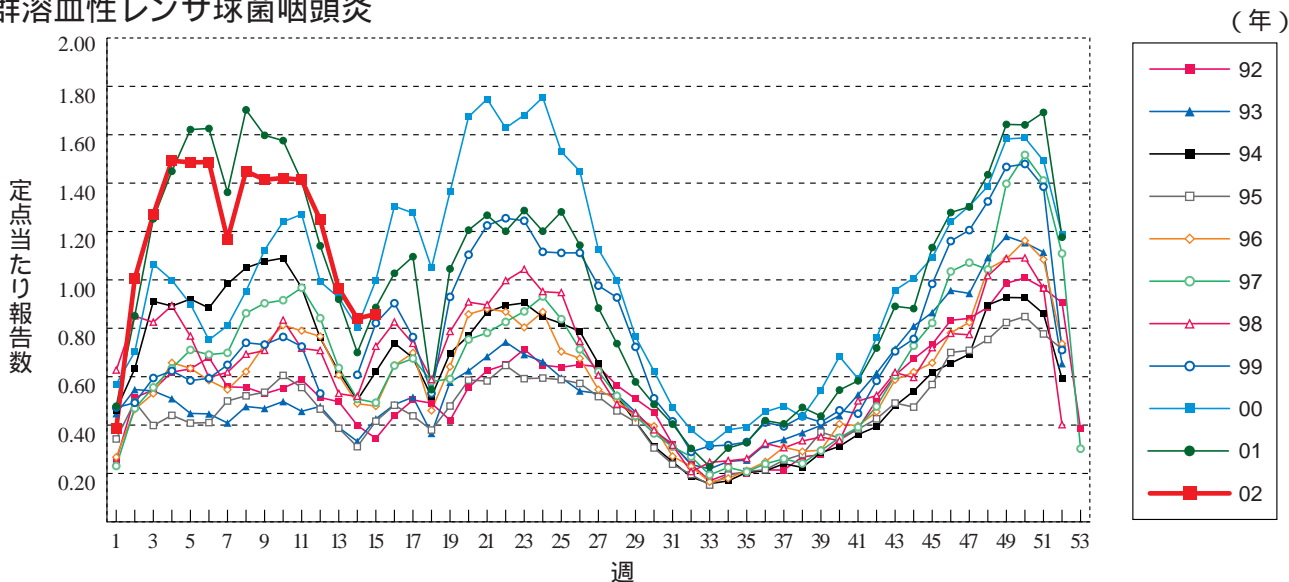
**インフルエンザ**



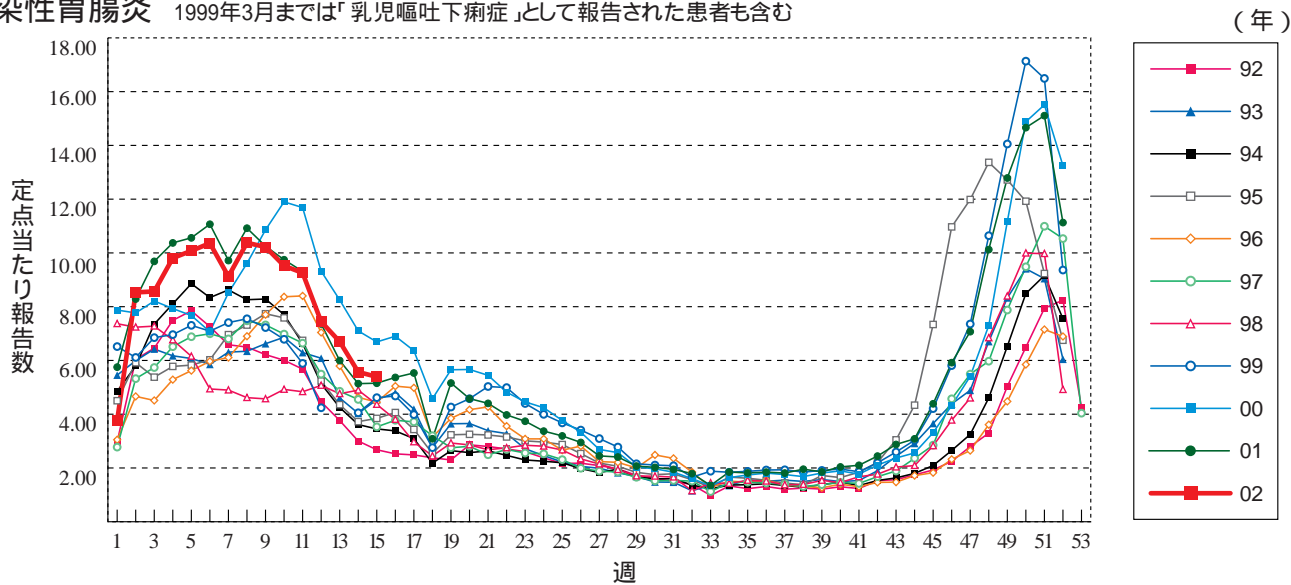
**咽頭結膜熱**



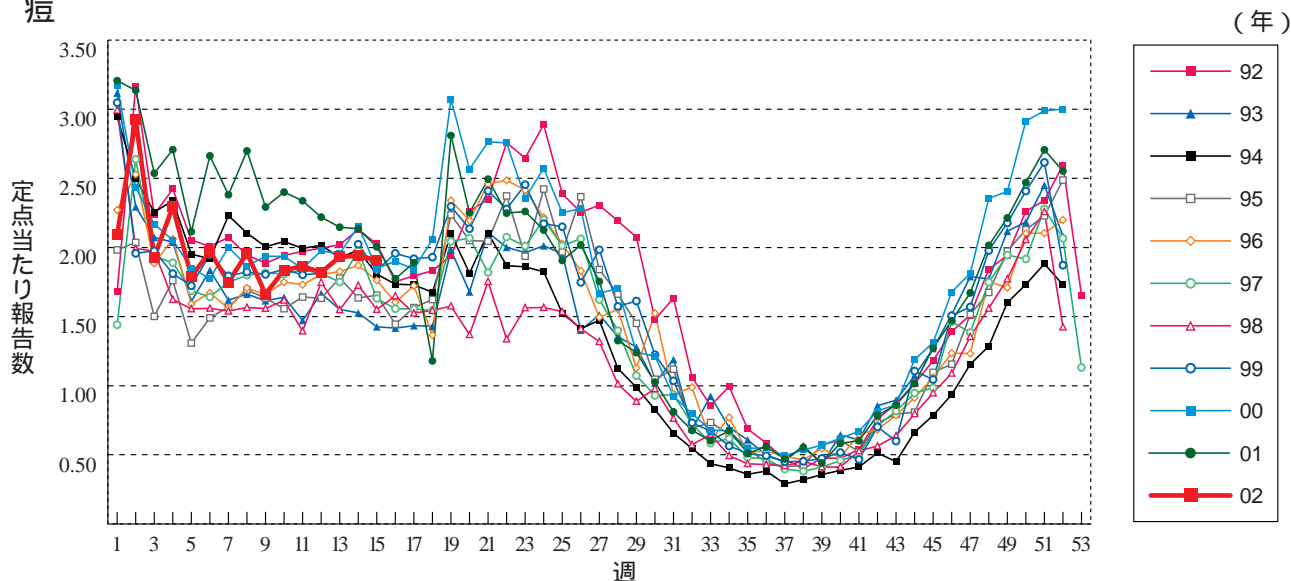
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



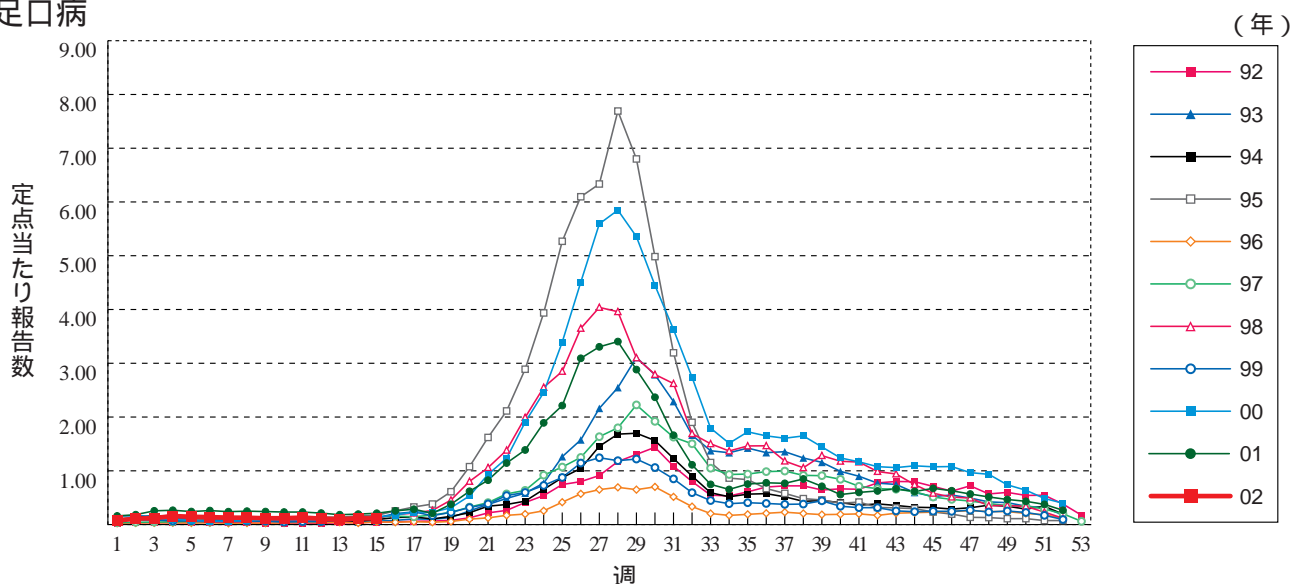
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



**水痘**

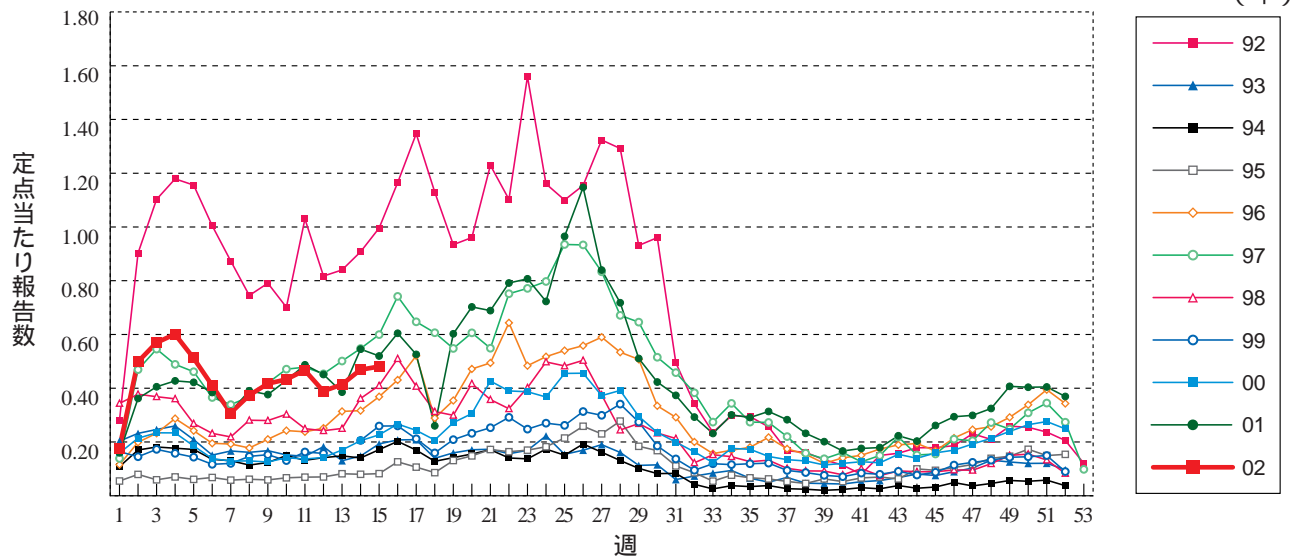


**手足口病**

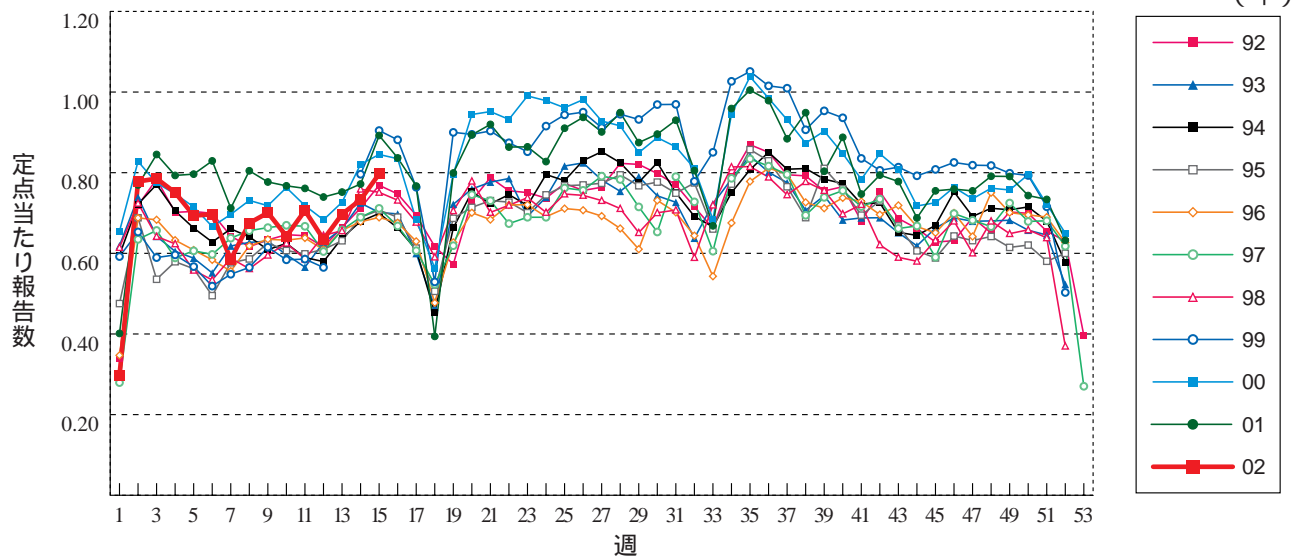




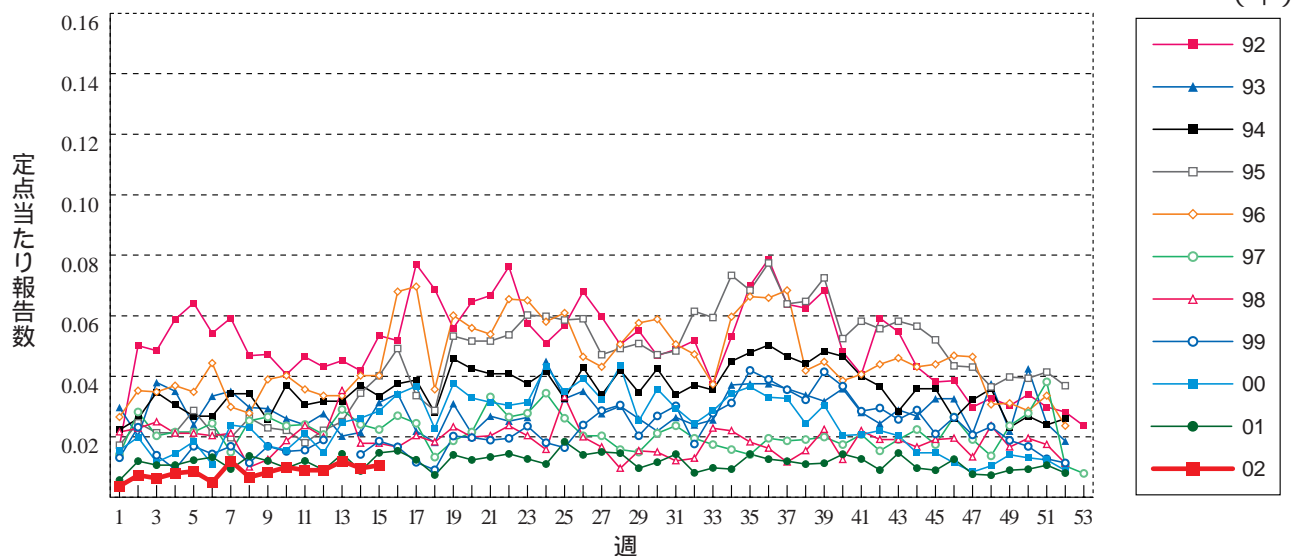
伝染性紅斑



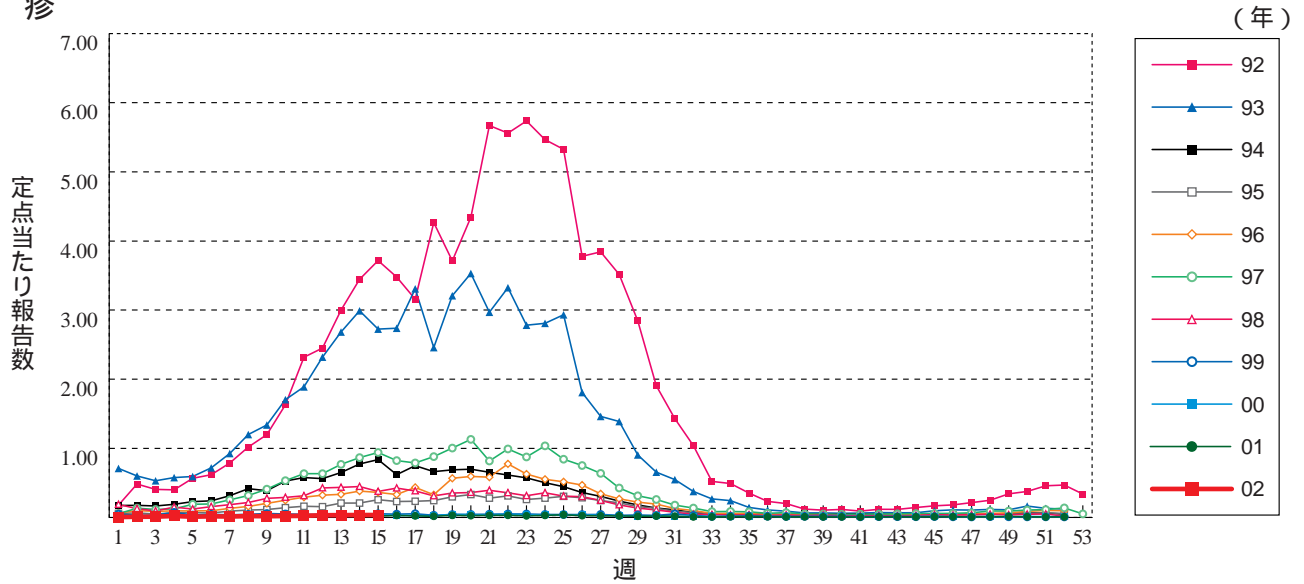
突発性発疹



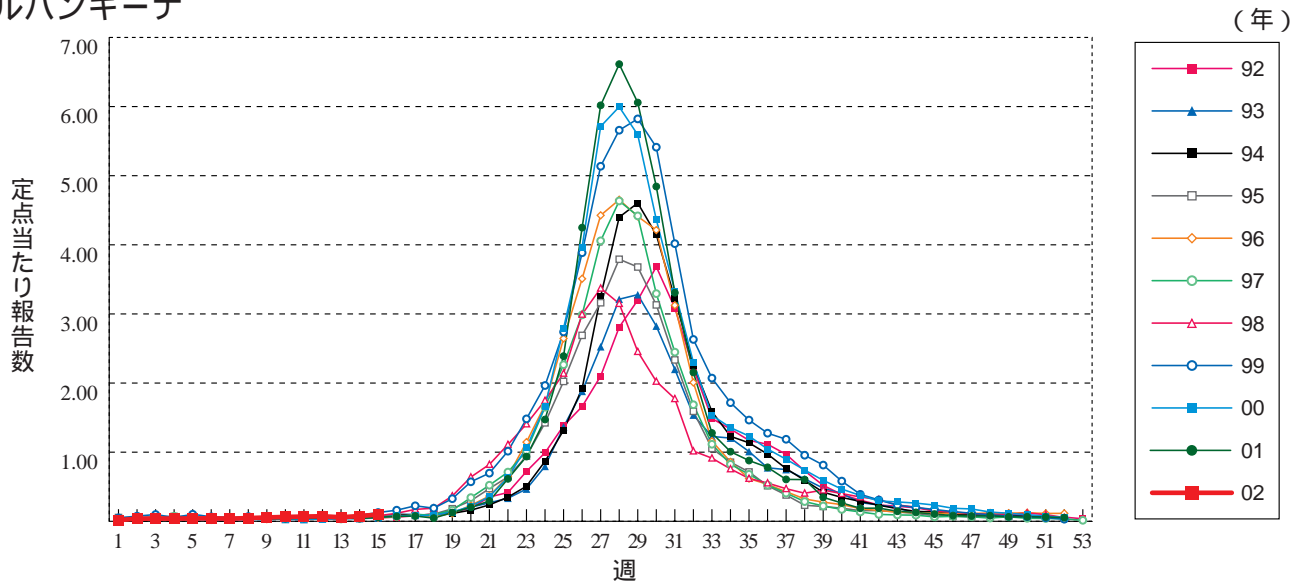
百日咳



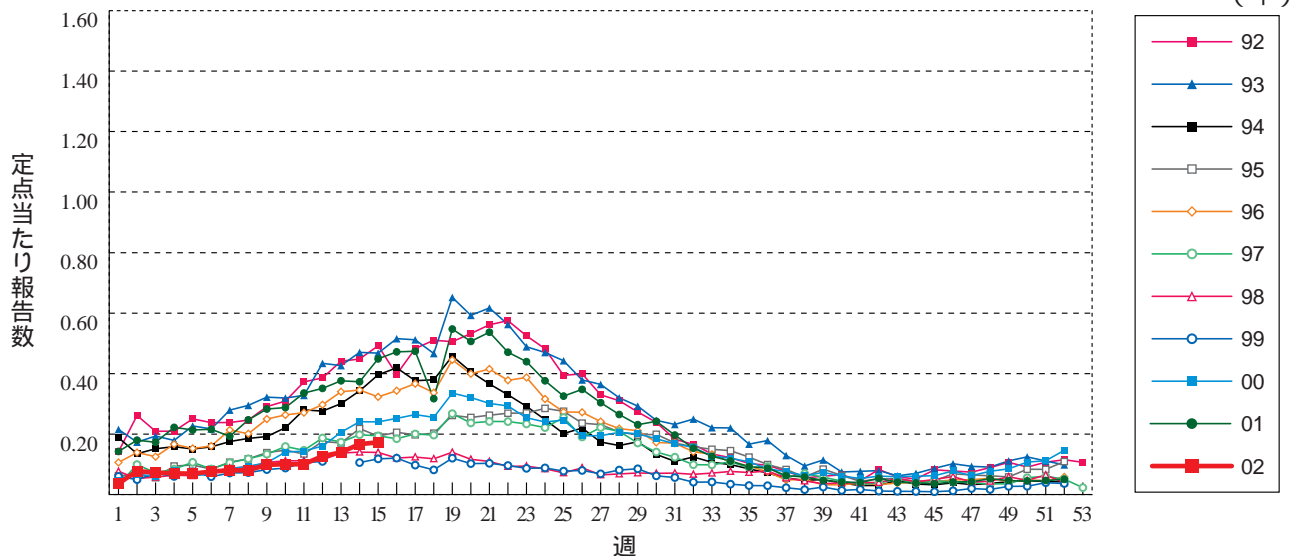
風 疹



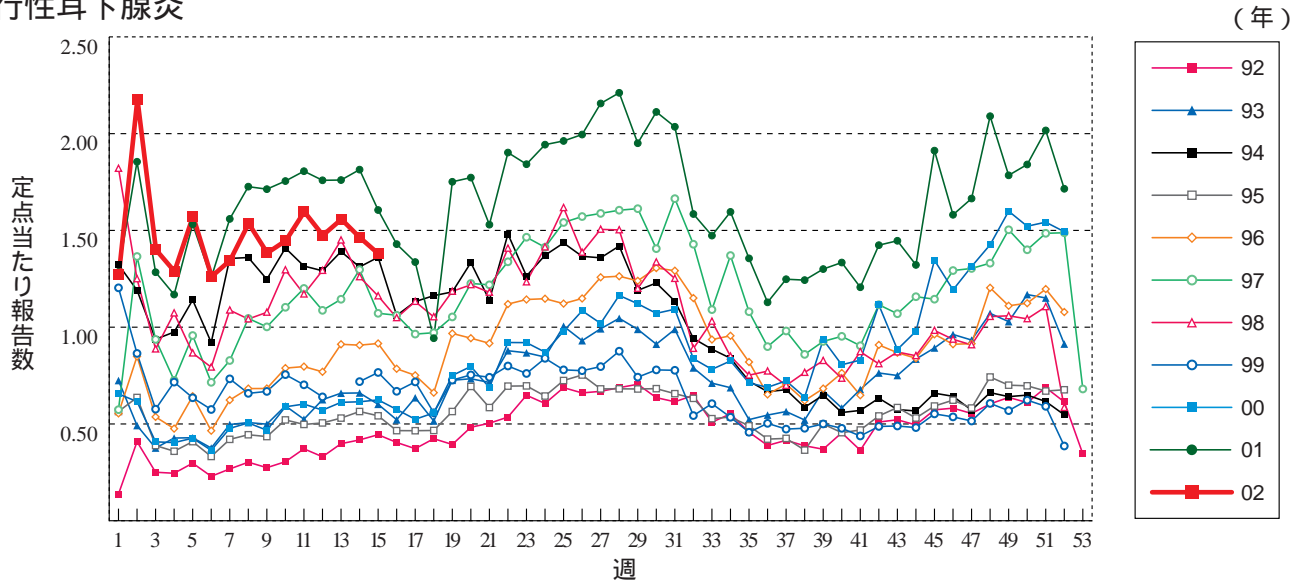
ヘルパンギーナ



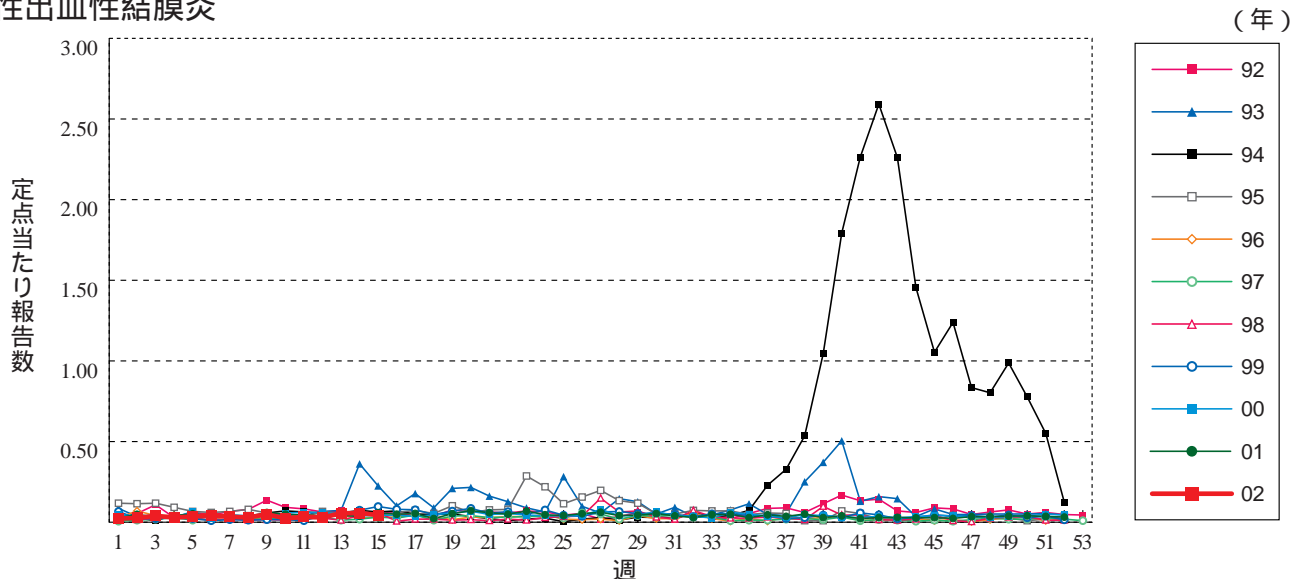
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



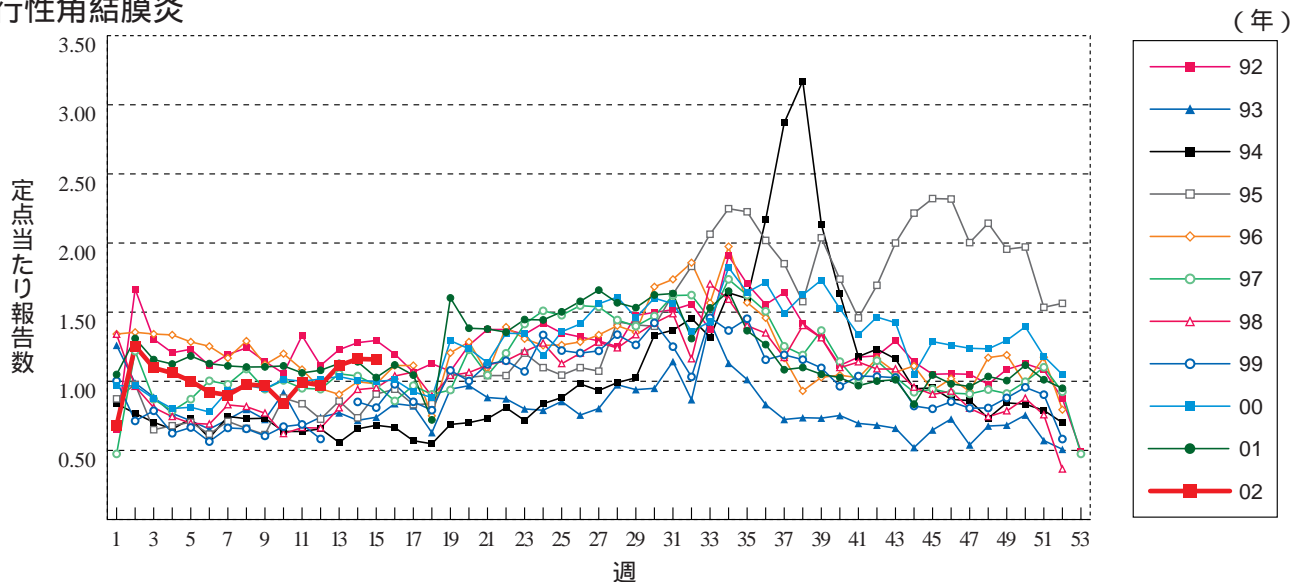
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

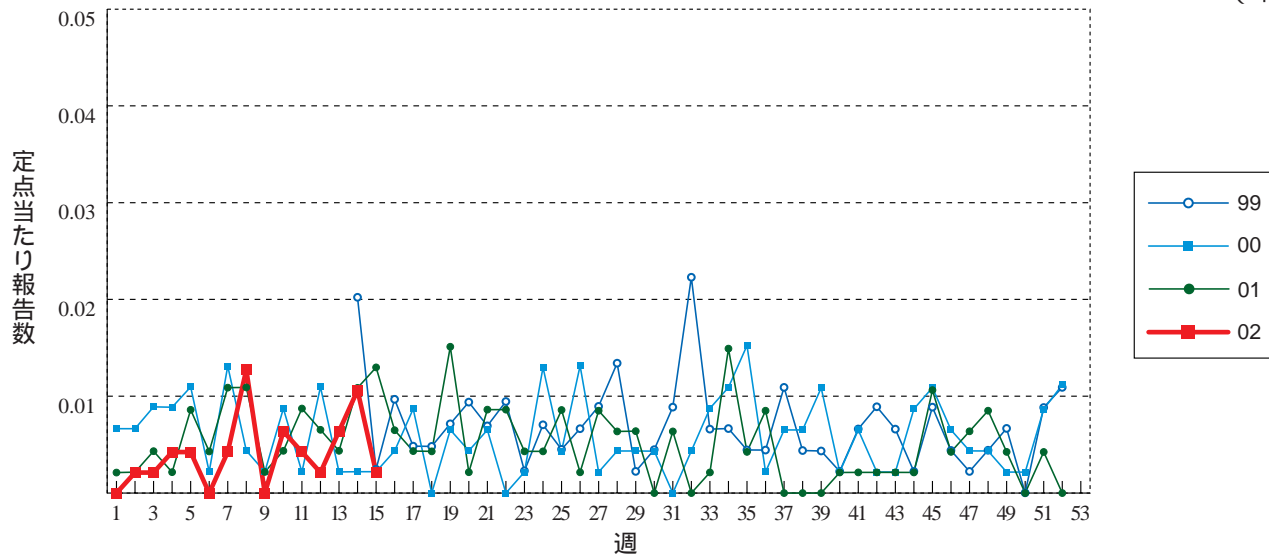


流行性角結膜炎



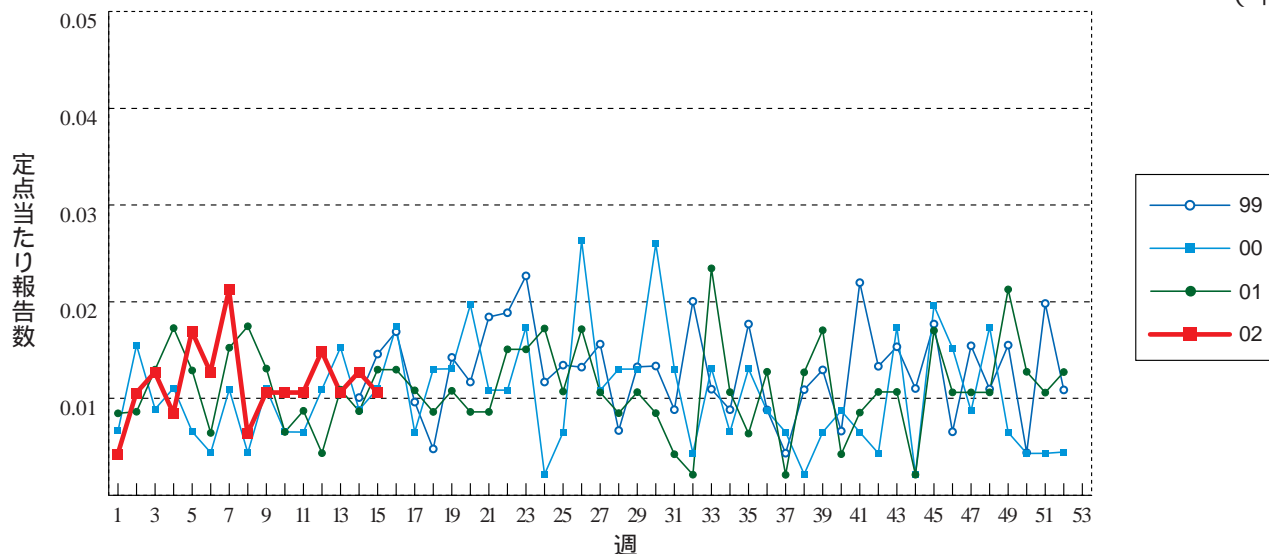
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



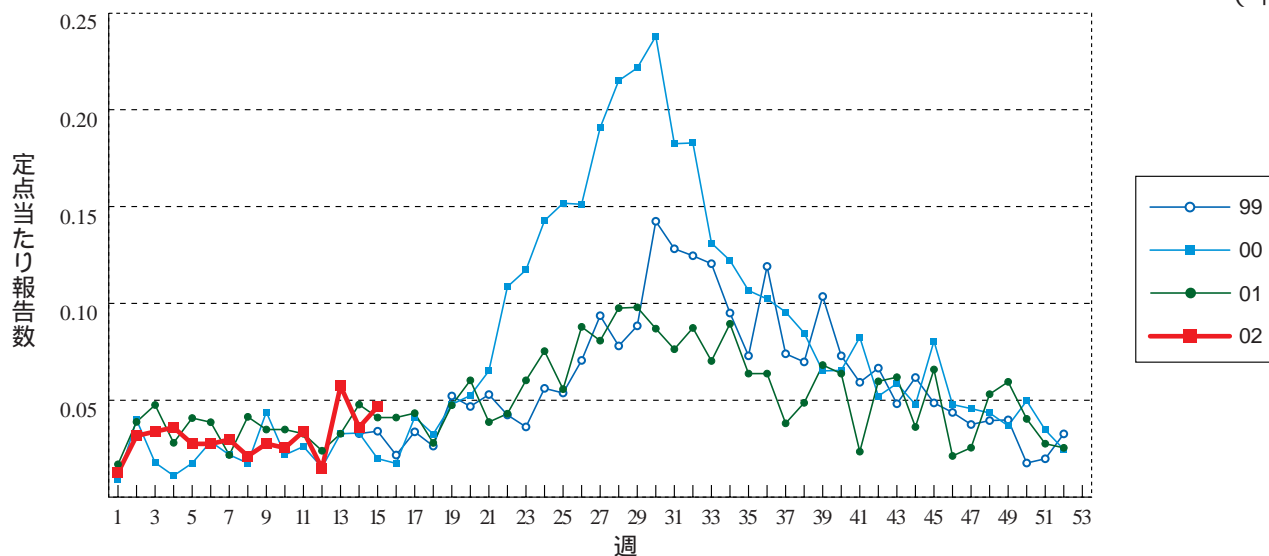
細菌性髄膜炎

(年)



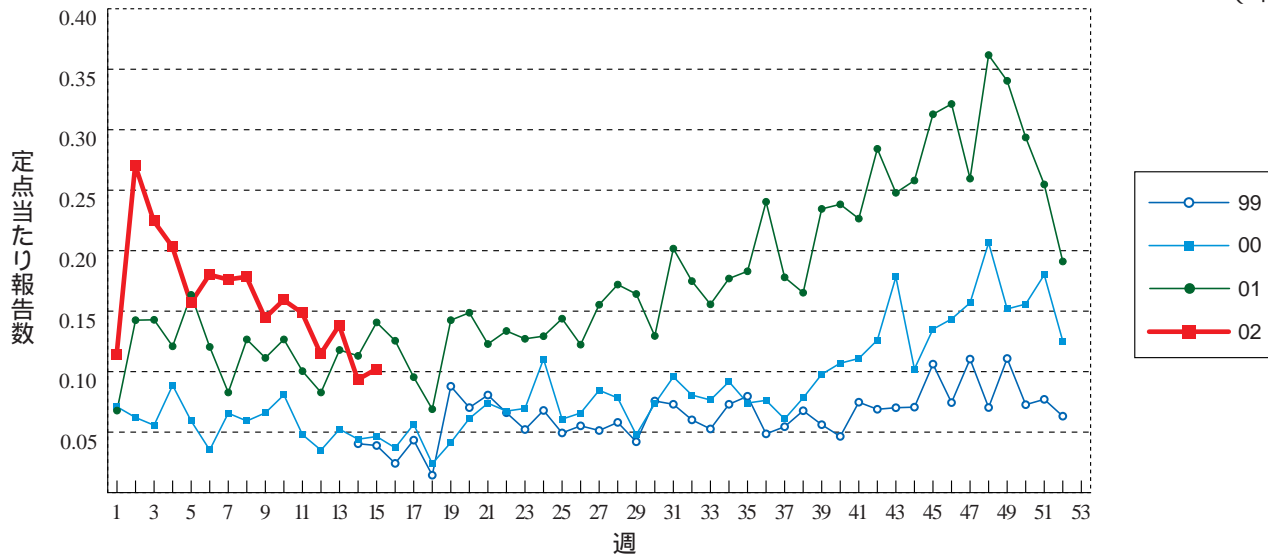
無菌性髄膜炎

(年)



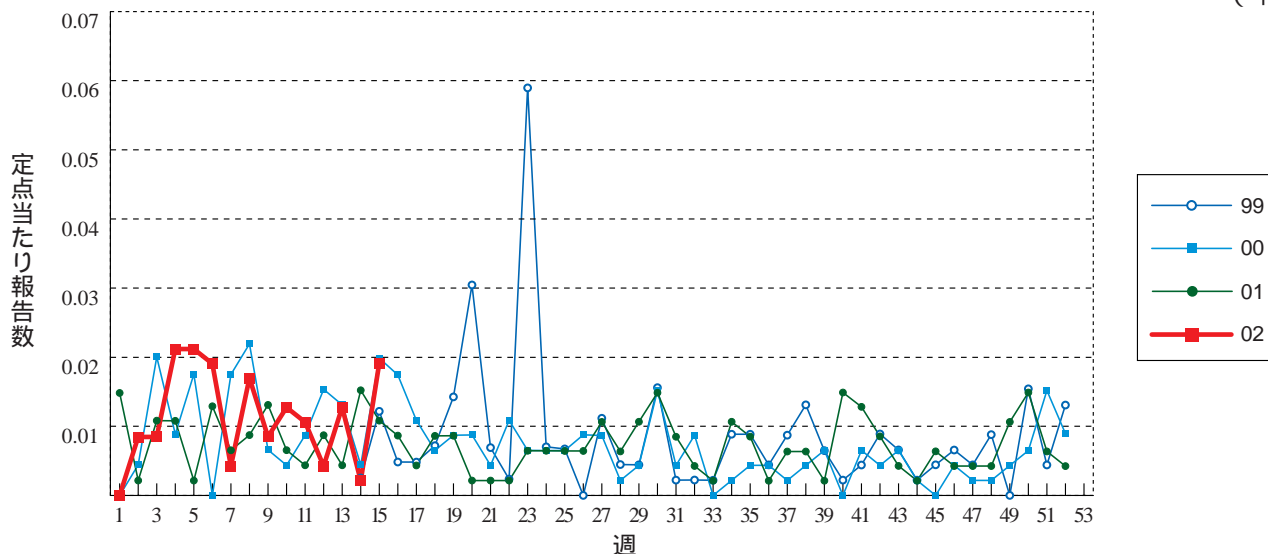
マイコプラズマ肺炎

(年)



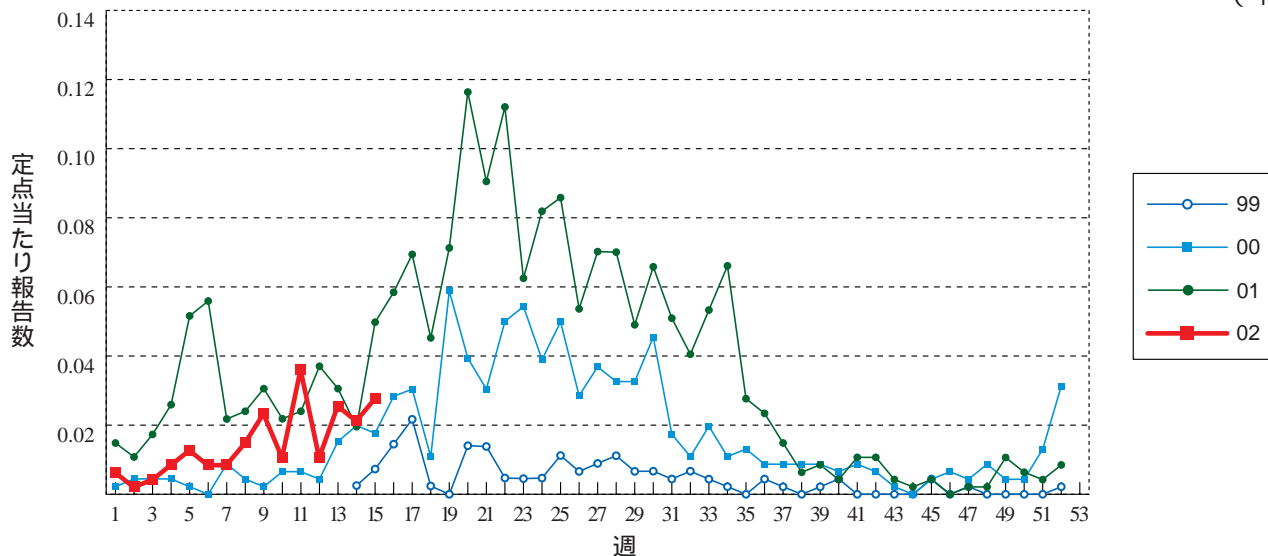
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





### 15週のデータ

注)表中の報告数は4月19日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年15週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	5	290	1	16	2	9		
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	63	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	23	1	8	1	3	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	1	1	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	1
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	3	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年15週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	12	134	5	111	-	2	-	-	1	27	-	-	12	299
北海道	-	-	-	-	-	3	1	5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
宮城県	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	18
秋田県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	10
福島県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	21
東京都	-	-	-	-	1	7	1	23	-	-	-	-	-	1	-	-	-	48
神奈川県	-	-	-	-	1	9	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
新潟県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	3	-	-	1	10
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
愛知県	-	-	-	-	-	7	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
三重県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	1	7	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大阪府	-	-	-	-	1	9	-	12	-	-	-	-	-	1	2	-	-	11
兵庫県	-	-	-	-	4	23	-	6	-	-	-	-	-	2	-	-	1	14
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
広島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	8
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
徳島県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	1	8	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
佐賀県	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
鹿児島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年15週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	2	-	-	-	63	3	42	2	33	14	211	-	1	3	24	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	6	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	6	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	13	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	3	87	-	-	2	11	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	14	-	-	-	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	2	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	6	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	4	-	12	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	4	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	16	-	1	1	1	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	61	-	2	-	3	1	5	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-



第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年15週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	3	46	-	14	-	-	-	-	-	-	4	141
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-	1	17
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	27
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1	7
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
広島県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年15週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	13	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25	-	-	1	32
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	3
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	6
神奈川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 2
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	3
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年15週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	4149	0.89	100	0.03	2598	0.86	16308	5.39	5770	1.91	345	0.11	1454	0.48	2411	0.80	32	0.01
北海道	403	1.75	2	0.01	228	1.57	380	2.62	189	1.30	13	0.09	32	0.22	104	0.72	1	0.01
青森県	108	1.66	-	-	55	1.31	204	4.86	52	1.24	5	0.12	67	1.60	18	0.43	-	-
岩手県	129	2.11	1	0.03	18	0.49	147	3.97	61	1.65	-	-	1	0.03	18	0.49	1	0.03
宮城県	121	1.25	1	0.02	45	0.76	353	5.98	79	1.34	7	0.12	34	0.58	60	1.02	2	0.03
秋田県	112	2.04	2	0.06	38	1.09	184	5.26	30	0.86	-	-	65	1.86	21	0.60	-	-
山形県	136	2.83	-	-	55	1.83	129	4.30	53	1.77	1	0.03	16	0.53	26	0.87	1	0.03
福島県	46	0.58	-	-	40	0.87	263	5.72	118	2.57	3	0.07	58	1.26	48	1.04	1	0.02
茨城県	23	0.20	-	-	35	0.47	220	2.97	101	1.36	11	0.15	41	0.55	30	0.41	-	-
栃木県	14	0.20	5	0.11	23	0.50	210	4.57	64	1.39	4	0.09	42	0.91	36	0.78	-	-
群馬県	66	0.66	3	0.05	38	0.61	236	3.81	94	1.52	-	-	26	0.42	63	1.02	1	0.02
埼玉県	91	0.36	9	0.06	150	0.96	864	5.50	313	1.99	16	0.10	68	0.43	153	0.97	1	0.01
千葉県	108	0.53	-	-	119	0.92	597	4.59	330	2.54	4	0.03	35	0.27	114	0.88	-	-
東京都	33	0.19	3	0.02	46	0.32	496	3.49	123	0.87	21	0.15	27	0.19	78	0.55	-	-
神奈川県	77	0.23	10	0.05	157	0.76	949	4.61	326	1.58	23	0.11	130	0.63	186	0.90	-	-
新潟県	200	2.41	5	0.10	81	1.62	241	4.82	133	2.66	8	0.16	65	1.30	51	1.02	-	-
富山県	88	1.83	1	0.03	69	2.38	155	5.34	85	2.93	5	0.17	45	1.55	27	0.93	1	0.03
石川県	68	1.42	3	0.10	33	1.14	295	10.17	77	2.66	7	0.24	42	1.45	20	0.69	-	-
福井県	66	2.06	-	-	24	1.09	199	9.05	42	1.91	-	-	12	0.55	20	0.91	-	-
山梨県	44	1.07	-	-	24	0.96	90	3.60	25	1.00	3	0.12	11	0.44	8	0.32	-	-
長野県	133	1.55	3	0.06	84	1.56	286	5.30	62	1.15	2	0.04	44	0.81	36	0.67	-	-
岐阜県	23	0.33	4	0.09	52	1.11	153	3.26	88	1.87	1	0.02	15	0.32	24	0.51	-	-
静岡県	97	0.71	1	0.01	80	0.93	407	4.73	228	2.65	7	0.08	60	0.70	85	0.99	-	-
愛知県	103	0.54	3	0.02	123	0.68	800	4.40	277	1.52	23	0.13	36	0.20	134	0.74	2	0.01
三重県	64	0.88	-	-	31	0.69	334	7.42	98	2.18	6	0.13	24	0.53	47	1.04	-	-
滋賀県	35	0.66	1	0.03	11	0.34	121	3.78	70	2.19	2	0.06	17	0.53	16	0.50	-	-
京都府	67	0.53	-	-	31	0.41	484	6.37	105	1.38	-	-	49	0.64	44	0.58	3	0.04
大阪府	81	0.27	6	0.03	99	0.51	871	4.47	237	1.22	16	0.08	55	0.28	118	0.61	3	0.02
兵庫県	133	0.67	2	0.02	72	0.56	1035	8.09	293	2.29	10	0.08	59	0.46	103	0.80	2	0.02
奈良県	22	0.40	-	-	15	0.43	143	4.09	63	1.80	3	0.09	29	0.83	32	0.91	1	0.03
和歌山県	20	0.40	-	-	34	1.10	166	5.35	34	1.10	2	0.06	12	0.39	22	0.71	-	-
鳥取県	28	0.97	-	-	14	0.74	369	19.42	53	2.79	2	0.11	5	0.26	20	1.05	-	-
島根県	25	0.66	4	0.17	12	0.52	83	3.61	36	1.57	33	1.43	17	0.74	19	0.83	-	-
岡山県	69	0.82	1	0.02	14	0.26	186	3.44	57	1.06	1	0.02	4	0.07	22	0.41	-	-
広島県	59	0.50	2	0.03	45	0.60	488	6.51	114	1.52	15	0.20	14	0.19	68	0.91	2	0.03
山口県	187	2.67	2	0.04	46	0.94	493	10.06	153	3.12	5	0.10	21	0.43	40	0.82	2	0.04
徳島県	52	1.37	-	-	12	0.52	96	4.17	30	1.30	1	0.04	5	0.22	19	0.83	2	0.09
香川県	78	1.53	1	0.03	16	0.50	165	5.16	90	2.81	9	0.28	10	0.31	22	0.69	-	-
愛媛県	25	0.39	1	0.03	49	1.26	365	9.36	96	2.46	-	-	27	0.69	51	1.31	-	-
高知県	12	0.24	1	0.03	43	1.39	117	3.77	57	1.84	33	1.06	10	0.32	12	0.39	-	-
福岡県	381	1.92	6	0.05	201	1.68	860	7.17	403	3.36	4	0.03	37	0.31	131	1.09	1	0.01
佐賀県	17	0.44	-	-	31	1.35	147	6.39	45	1.96	2	0.09	15	0.65	39	1.70	-	-
長崎県	30	0.43	-	-	13	0.30	173	3.93	95	2.16	-	-	19	0.43	24	0.55	-	-
熊本県	108	1.33	7	0.14	72	1.47	277	5.65	121	2.47	-	-	15	0.31	63	1.29	2	0.04
大分県	91	1.57	-	-	39	1.08	314	8.72	84	2.33	-	-	13	0.36	37	1.03	1	0.03
宮崎県	198	3.30	4	0.11	51	1.38	572	15.46	131	3.54	3	0.08	11	0.30	52	1.41	-	-
鹿児島県	41	0.42	3	0.05	24	0.40	560	9.33	201	3.35	1	0.02	14	0.23	35	0.58	1	0.02
沖縄県	37	0.64	3	0.09	6	0.18	31	0.91	154	4.53	33	0.97	-	-	15	0.44	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年15週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	106	0.04	296	0.10	522	0.17	4171	1.38	28	0.04	733	1.16	1	0.00	5	0.01	22	0.05
北海道	1	0.01	3	0.02	4	0.03	70	0.48	-	-	27	0.93	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	11	0.26	45	1.07	80	1.90	1	0.09	9	0.82	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	2	0.05	61	1.65	-	-	20	1.67	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	1	0.02	18	0.31	146	2.47	1	0.09	8	0.73	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	2	0.06	-	-	55	1.57	1	0.14	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	1	0.03	1	0.03	127	4.23	-	-	4	0.50	-	-	-	-	1	0.10
福島県	-	-	1	0.02	26	0.57	101	2.20	2	0.17	16	1.33	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	2	0.03	25	0.34	81	1.09	-	-	47	2.94	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	1	0.02	77	1.67	1	0.08	15	1.25	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.02	1	0.02	11	0.18	75	1.21	-	-	27	1.93	-	-	-	-	-	-
埼玉県	2	0.01	10	0.06	56	0.36	122	0.78	1	0.03	45	1.32	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.01	8	0.06	51	0.39	108	0.83	1	0.03	42	1.20	-	-	1	0.08	1	0.08
東京都	-	-	6	0.04	12	0.08	91	0.64	-	-	19	1.36	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	3	0.01	10	0.05	21	0.10	168	0.82	3	0.07	63	1.50	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	2	0.04	-	-	144	2.88	-	-	10	1.67	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	1	0.03	9	0.31	104	3.59	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	4	0.14	-	-	61	2.10	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	1	0.05	5	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	8	0.32	43	1.72	1	0.33	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	121	2.24	1	0.10	10	1.00	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1	0.02	-	-	18	0.38	44	0.94	-	-	14	1.27	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.02	6	0.07	26	0.30	146	1.70	-	-	23	1.15	-	-	-	-	-	-
愛知県	9	0.05	10	0.05	119	0.65	238	1.31	-	-	28	0.80	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	1	0.02	50	1.11	-	-	20	1.67	-	-	1	0.11	-	-
滋賀県	-	-	1	0.03	5	0.16	31	0.97	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.14
京都府	6	0.08	3	0.04	3	0.04	68	0.89	-	-	9	0.50	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	0.01	20	0.10	12	0.06	121	0.62	2	0.04	15	0.29	-	-	-	-	-	-
兵庫県	2	0.02	3	0.02	1	0.01	139	1.09	1	0.03	36	1.00	-	-	-	-	2	0.15
奈良県	-	-	-	-	1	0.03	90	2.57	-	-	9	1.00	-	-	1	0.17	1	0.17
和歌山県	-	-	-	-	5	0.16	63	2.03	-	-	1	0.25	1	0.09	1	0.09	-	-
鳥取県	-	-	2	0.11	8	0.42	29	1.53	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1.20
島根県	-	-	3	0.13	-	-	27	1.17	1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	2	0.04	3	0.06	127	2.35	-	-	12	1.00	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	2	0.03	3	0.04	89	1.19	1	0.05	27	1.35	-	-	1	0.05	-	-
山口県	2	0.04	25	0.51	1	0.02	39	0.80	1	0.11	32	3.56	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.04	-	-	2	0.09	68	2.96	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	3	0.09	37	1.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	13	0.33	-	-	82	2.10	-	-	28	4.00	-	-	-	-	1	0.17
高知県	-	-	3	0.10	1	0.03	20	0.65	-	-	8	2.67	-	-	-	-	3	0.38
福岡県	59	0.49	27	0.23	11	0.09	144	1.20	-	-	43	1.65	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1	0.04	26	1.13	-	-	33	1.43	-	-	2	0.50	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	-	-	12	0.27	-	-	46	1.05	9	1.13	8	1.00	-	-	-	-	-	-
熊本県	3	0.06	19	0.39	2	0.04	37	0.76	-	-	12	1.33	-	-	-	-	2	0.13
大分県	1	0.03	21	0.58	6	0.17	86	2.39	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	22	0.59	-	-	198	5.35	-	-	7	1.75	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	2	0.03	8	0.13	-	-	155	2.58	-	-	13	2.17	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	4	0.12	-	-	124	3.65	-	-	16	1.60	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年15週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	48	0.10	9	0.02	13	0.03
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	3	0.25	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	2	0.20	-	-	1	0.10
福島県	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	2	0.29	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.08	-	-	-	-
東京都	2	0.08	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	-	-	3	0.27
新潟県	1	0.08	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	3	0.60
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	0.10	6	0.60	-	-
長野県	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	3	0.30
愛知県	-	-	1	0.08	1	0.08
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	3	0.43	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.07	-	-	-	-
兵庫県	1	0.08	-	-	-	-
奈良県	3	0.50	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	0.40	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	3	0.60	-	-	-	-
広島県	4	0.19	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	4	0.67	-	-	-	-
高知県	1	0.13	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	-	-	1	0.07
佐賀県	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	-	-
大分県	1	0.10	2	0.20	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第15号 平成14年4月26日発行  
 発行：国立感染症研究所  
 厚生労働省健康局結核感染症課  
 厚生労働省大臣官房統計情報部  
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
 T E L : 03-5285-1111  
 F A X : 03-5285-1129  
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
 <厚生労働省>  
<http://www.forth.go.jp/>  
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。